

Japanese Society

Hip

2019
9

日本股関節学会ニュースレター

第5号

海外研修帰朝報告

スイス・アメリカ

令和2年度海外研修制度と募集要項

バレエダンサー・俳優 首藤康之

インタビュー

「美しくバレエを踊るためには骨と筋肉について理解を深め、一日も欠かさず練習することです」

第45回学術集会を開催して

第46回学術集会のご案内

第5回教育研修セミナーご案内

第29回大正富山 Award 受賞者

第63回韓国股関節学会学術集会参加報告記

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2019/9
第5号

- 3 目次
- 5 理事長ご挨拶
- 7 第45回日本股関節学会学術集会を開催して
- 8 第46回日本股関節学会学術集会のご案内
- 10 インタビュー 首藤 康之 (バレエダンサー・俳優)
- 15 第5回日本股関節学会教育研修セミナーのご案内
- 16 第29回大正富山Award 最優秀賞
- 18 海外研修帰朝報告
- 21 令和2年度海外研修制度と募集要項
- 23 第63回韓国股関節学会学術集会参加報告記
- 24 役員一覧①
- 25 新理事よりご挨拶
- 26 役員一覧②
- 28 入会案内
- 30 編集後記



日本股関節学会ニュースレター（第5号）理事長ご挨拶

日本股関節学会 理事長 久保 俊一

京都府立医科大学 特任教授
京都地域医療学際研究所 所長

日本股関節学会は、いままで検討を続けてまいりました法人化を、昨年9月に行いました。法人化のきっかけの一つであった股関節鏡手術の技術認定も実施して、責任ある学会として新たなスタートが切れたと考えております。日頃から学会運営に多大なご協力をいただいている会員の皆様に深く感謝いたします。

ニュースレターも第5号となり、会員相互の情報交流ツールとして定着し、発行を楽しみにされている方も多いと思います。本号では、海外研修制度として3期生に当たる3名の先生方から、スイスのベルン大学、米国のワシントン大学、同じく米国のボストン小児病院で研修した内容が報告されております。どの先生からもこの経験の喜びと制度に対する感謝の気持ちが綴れており、会員の皆様のご賛同とサポートによって、次世代の優秀な人材の研修の機会となっていることを大変嬉しく思います。また、昨年大正富山 Award の最優秀賞を受賞した浜松医療センターの森田大悟先生、優秀賞を受賞したひらまつ病院の田中里紀先生の受賞コメントも掲載されています。受賞の喜びとともに股関節学の進歩に携わる喜びも伝わってきます。今回、復活いたしました特別インタビュー（首藤康之：パレーダンサー・俳優）とともにぜひ楽しんでお読みいただきたいと思います。

昨年の第45回学術集会は、「青は藍より出でて」というテーマで藤田医科大学の山田治基会長のもとに開催され、1,800名の参加者が集まる大盛会となりました。当学会が担うべきベテランから若手への知識と技術の継承を目指す大きなステップになったと思います。ここ数年、学会としては、新しい疾患概念である Femoroacetabular Impingement (FAI) に焦点をあて、診療指針を作成したほか、ガイドラインにFAIの章を新設してやや未秩序であったFAIの診療について整理してまいりました。さらに、昨年からは、本邦でのFAIの実態を明らかにするため疫学調査をはじめており、数年後には、世界的にも重要なデータが出るものと期待しております。一方、治療法に関するプロジェクトですが、初めてご紹介したように、股関節鏡下手術の質を担保していくためにはじめた技術認定制度がスタートし、昨年度19名の技術認定が行われました。股関節学会として、今後骨切り術などを含め認定制度を進めていきたいと考えております。そのためのステップとして、骨切り術や関節鏡手術のレジストリー（手術の登録）のシステムも必要です。令和の最初の課題として進めていきたいと思っております。

今秋、10月25日、26日には第46回の学術集会在宮崎大学の帖佐悦男先生により「股関節学のイノベーション—継承と革新—」をテーマに準備されております。多くの皆様の参加により、昨年に負けない学術集会になることを期待しております。会員の皆様と宮崎でお会いすることを楽しみにしております。

第45回日本股関節学会学術集会を開催して

日本股関節学会
ニュースレター



久保俊一理事長の特別講演後に感謝状を授与をする山田治基大会長

山田 治基

藤田医科大学整形外科名誉教授

平成30年10月26・27日の2日間にわたり第45回日本股関節学会学術集会を名古屋国際会議場で開催させていただきました。我が国における股関節研究の基幹となる本学術集会を当教室で担当させていただくことは大変な光栄であり、このような機会を与えていただきました会員の方々にご心より感謝申し上げます。

本学術集会のテーマは「青は藍より出でて」としました。このことわざは「青は藍より出でて藍より青し」が全文です。「藍」とは、染料に使う藍草のことで、藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となります。その関係を弟子と師匠にあてはめて、弟子が師匠の学識や技術を越えていくという意のことわざです。若い会員の方々に将来、先輩を越えて行けるように、多くのものを持ち帰っていただけるような内容にしたいと思い企画をいたしました。

招待講演としては、2018年のORS会長であるRush University Medical CenterのProfessor D Rick Sumner先生に人工股関節の生物学的固定と骨融解について、Samsung Medical CenterのProfessorのYoun Soo Park先生に人工股関節置換術のスキルについて、Catholic University of KoreaのProfessor Yong-Koo Kang先生に同種骨移植の成績について、藤田医科大学リハビリテーション科教授の才藤栄一先生に運動器リハビリテーションの最前線についてご講演をいただきました。教育研修講演を8題、シンポジウムを6題、パネルを4題とし、総演題数は839題（医師650題、看護45題、リハビリ144題）となりました。

本学術集会は日本股関節学会が一般社団法人化された後の初めての学術集会となりました。法人となり国民のかかえる股関節領域の諸問題に対する日本股関節学会の責任は一段と重くなりました。この点をふまえ、理事長である久保俊一先生に「法人化された日本股関節学会の課題」と題した特別講演をいただきました。学会員すべてが今後どのような問題意識をもって進んでいくべきかをご教示いただけたと思っております。

最後になりましたが、本学術集会の開催にあたっては会員の先生方から多大なご支援をいただきましたこと、この場をお借りして心より御礼を申し上げます。



2018年ORS会長Sumner先生の招待講演

開催告知

第46回日本股関節学会学術集会

今年(2019年)10月25(金)・26日(土)に開催する第46回日本股関節学会学術集会について

会長 帖佐 悦男

宮崎大学医学部整形外科 教授

この度、「第46回日本股関節学会学術集会」を2019年10月25日(金)・26日(土)に宮崎市のシーガイアコンベンションセンターにおいて開催させていただきます。本学会は、股関節学に関する基礎・臨床研究、教育を目的として1974年日本股関節研究会として発足し、その後諸先生方のご努力によって発展を遂げ、1986年の第13回からは日本股関節学会となり、整形外科の中でも特に股関節学を専門とされたり興味をもたれている医師・メディカルスタッフを含めた様々な分野の方々が日本全国から一堂に会し、股関節学に関する基礎的なことから臨床に至るまでの最新の話題などを討論する場であり、また、親睦を深める場でもあると思っております。

宮崎大学と致しまして初めて本学術集会を開催させて頂くことは、大変名誉なことであり、光栄に存じます。ひとえに会員の皆様のおかげと心より感謝いたしております。

股関節学の対象は、新生児から高齢者、障害者・健常者まで幅広い世代を網羅してディスカッションできることも本学会の特徴の一つです。その対象疾患は、変性疾患、外傷、スポーツ疾患、感染症、骨代謝疾患、先天性疾患、腫瘍など多岐にわたっています。そこで、“股関節学イノベーション—継承と革新—”をテーマと致しました。これまで先人たちが築いてこられました股関節学の諸分野の成果と遺産を継承しつつ、さらに次の世代に向けて新たな股関節学の発展のために、最先端の知識、技術の開発・修得や人材育成が重要と考えております。本学術集会は、日本股関節学会が一般社団法人化されて2回目の学術集会ですので、股関節領域の諸問題に関し、国民に向けても発信できる場となればと思っております。若手から股関節専門の方々、医師のみでなく看護師、理学療法士、臨床検査技師をはじめとした全てのメディカルスタッフの方々に、股関節学の基礎からイノベーションに関する話題を持ち帰って頂けるようなプログラムを準備致しました。招待講演は、FAIやPAOの提唱者で私の恩師のスイスベルン大学名誉教授のReinhold Ganz先生に“Hip preserving surgery. Where do we come from and where are we today”のタイトルでご講演頂けますので、大変楽しみにしております。他に3名のベルンヒップ関連の先生、2名の韓国股関節学会の先生、特別講演は理化学研究所 骨関節疾患研究チーム チームリーダーの池川志郎先生、教育研修講演として、AI診断学に関し熊本大学放射線医学前教授の山下康行先生をはじめ各分野のスペシャリストの先生にご講演頂きます。第一線でご活躍の先生にシンポジウム、パネルディスカッション、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、ハンズオンセミナーを担当して頂き、メディカルスタッフセッション、一般演題やポスターセッションで活発にご討議頂ければ幸いです。

会場は、宮崎・ーツ葉海岸の豊かな景観の中に広がるリゾートコンプレックス「シーガイア」の中央に位置し、過去には九州・沖縄サミットの外相会合の場として、また、ダンロップフェニックスゴルフトーナメントの開催地、野球、サッカー、ラグビーなど多くのトップアスリートの合宿の場として有名です。シーガイアは、英語で海を意味する「Sea」と地球を意味する「Gaia」を組み合わせた造語です。周辺には、古事記にも登場する神話に基づいた神社などが多数あります。またシーガイア周辺のみならず西都や高千穂も「古事記」「日本書紀」に登場する天孫降臨や天岩戸開きの地でもあります。他にも宮崎には魅力的な観光地や美味しい食がたくさんございますので、学会でのご活発な討論の後は、是非太陽あふれる景色や食をご堪能いただけたらと思います。皆様にお越しいただけることを心よりお待ちしております。



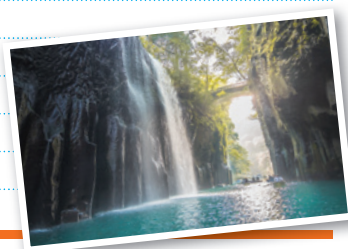
第46回日本股関節学会学術集会

テーマ **股関節学イノベーション — 継承と革新 —**

会期 **2019年10月25日(金)・26日(土)**

会場 **シーガイアコンベンションセンター 宮崎県宮崎市山崎町浜山**

会長 **帖佐 悦男(宮崎大学医学部整形外科 教授)**



おもなプログラム

海外招待講演	海外招待講演 1	Yoon Je Cho (Professor, Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Kyung Hee University, Korea)
	海外招待講演 2	Shin-Yoon Kim (Professor, Department of Orthopaedic Surgery, Kyungpook National University, Korea)
	海外招待講演 3	Reinhold Ganz (Professor emeritus at the University of Bern, Switzerland)
	海外招待講演 4	Michael Leunig (Schulthess Klinik, Switzerland)
	海外招待講演 5	Martin Beck (Chefarzt Orthopädie, Klinik für Orthopädie und Unfallchirurgie, Luzerner Kantonsspital, Switzerland)
	海外招待講演 6	Millis Michael (Orthopedic Surgeon, Orthopedic Center, Professor of Orthopedic Surgery, Harvard Medical School)
教育研修講演	1. 小児股関節	大谷 卓也 (東京慈恵会医科大学附属第三病院整形外科) 三谷 茂 (川崎医科大学 骨・関節整形外科)
	2. スポーツ障害・FAI	山藤 崇 (アントラージュスポーツクリニック) 福島 健介 (北里大学医学部整形外科)
	3. 画像診断とAI	山下 康行 (地方独立行政法人 くまもと県北病院機構)
	4. 関節リウマチとVTE	松下 功 (富山大学附属病院 整形外科・リハビリテーション部) 稲葉 裕 (横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学 整形外科)
	5. 大腿骨近位部(脆弱性)骨折	小久保 安朗 (福井大学医学部付属病院手術部) 高平 尚伸 (北里大学医療衛生学部)
	6. 変形性股関節症の保存療法	高木 理彰 (山形大学医学部 整形外科講座) 須藤 啓広 (三重大学大学院医学系研究科 生命医学系専攻 臨床医学系講座運動器外科学・腫瘍集学治療学)
	7. 股関節周囲腫瘍の治療	尾崎 敏文 (岡山大学病院整形外科) 松峯 昭彦 (福井大学医学部器官制御医学講座整形外科)
	8. 股関節疾患診療における医療安全	伊藤 浩 (旭川医科大学) 安永 裕司 (広島県立障害者リハビリテーションセンター)
シンポジウム	シンポジウム 1	寛骨臼骨切り術の未来を描く (骨切り術イノベーション)
	シンポジウム 2	大腿骨頭壊死にまつわる過去、現在、未来
	シンポジウム 3	股関節鏡視下手術の適応と限界
	シンポジウム 4	高度骨欠損に対する人工関節再置換術
	シンポジウム 5	寛骨臼骨折に対する治療戦略 一外傷外科医、股関節外科医のそれぞれの立場から—
	シンポジウム 6	高齢者脆弱性骨折に対する診断と治療
パネルディスカッション	パネルディスカッション 1	Respect soft tissue を目指した人工股関節置換術
	パネルディスカッション 2	診断遅延例 DDH の現状と治療
	パネルディスカッション 3	Subspecialty としての整形外傷 一股関節外科医の役割は?—
	パネルディスカッション 4	人工股関節周囲感染 (PJI) に関する治療戦略 一私はこう治療する—
	パネルディスカッション 5	股関節疾患とロコモティブシンドロームについて 一健康寿命延伸のために股関節外科医ができることは?—
	パネルディスカッション 6	骨切り術後の THA における工夫



首藤康之さんは30年以上もの間、日本を代表するバレエダンサーの一人として活躍しています。その秘訣について聞いてみました。

首藤康之

Yasuyuki Shuto

15歳で東京バレエ団に入団、19歳で主役デビュー。数々の古典作品から、モーリス・ベジャール、マシユー・ボン、イリ・キリアンなど、世界的現代振付家の作品に数多く主演。2004年の退団後も、シディ・ラルビ・シェルカウイ、ウィル・タケット、串田和美、白井晃、長塚圭史、小野寺修二など、国内外の振付家、演出家の作品に出演するほか、自らプロデュース公演も上演。また、海外公演にも多数出演。近年は中村恵恵との創作活動も積極的に行うほか、映画、TVドラマに出演するなど、表現の場を拡げている。第62回芸術選奨文部科学大臣賞。

美しくバレエを踊るためには 骨と筋肉について理解を深め、 一日も欠かさず練習することです

首藤 康之 (バレエダンサー・俳優)




Q 股関節はバレエにとって重要なパーツですか？

バレエには「ターンアウト」という、かかとと膝を外側に開いて下肢全体を外旋するというほかのスポーツやダンスにはない特殊なポジションがあります。動作としては「アンディオール」と呼びますが、下肢を外旋させることで、骨盤を高い位置に保つことができ脚をまっすぐ長くみせることができます。この動作を習得することがバレエの特性といえます。

Q ターンアウトやアンディオールを習得するためのポイントは？

股関節が球関節だということ、つまり「ソケットの構造」を意識しながら大腿骨頭から下を滑らかに外旋する練習が重要です。この時に大殿筋、大腿四頭筋などの大きな筋肉を使って外旋すると筋肉が固まって滑らかに動かなくなります。ポイントは、下肢表面の大きな筋肉を使うのではなく、梨状筋、内閉鎖筋、外閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋などの深層筋を使う意識を持つことです。さらにもっと重要なのは、重力によって股



関節や下肢にかかる圧力を、腹斜筋、腹直筋などで上に引き上げて減らすことです。

Q スタジオに人体模型がありますが…

若い頃は人体の構造に興味はなかったのですが、2003年にマシュー・ポーンという世界的な演出家の「スワン・レイク（白鳥の湖）」に出演し、ソロで踊っているときに舞台上で「バチン」という音がして何とか踊り切ったものの、その後は動けなくなり…。舞台衣装を着たまま、フランスのリヨンの病院に運び込まれ、足関節外側靭帯断裂で全治3か月と診断されました。でも公演スケジュールは決まっていたし、何としても1か月で復帰しなければなりません。無理をして治りかけの状態でご出演に出たため、その後に痛みや違和感が残ったため、自分で何とかする方法を見つけようと試行錯誤しました。これがきっかけで、骨や筋肉の構造に興味を持ち始めて、トレーニングやコンディショニングのメソッドを習得するようになりました。

Q どんなメソッドをご自身のコンディショニングに役立てていますか？

様々な大きさや固さのボールを使って筋肉や骨の柔軟性を高めながら、凝りや痛みや歪みなどを改善していく「ヤムナ・ボール・メソッド」はほぼ毎日続けています。バレエは股関節部分に負担がかかり、大腿骨頭が股関節の中に入り込み過ぎたり、大転子が外側に出すぎて狭くなり、中殿筋が引っ張られて緊張状態が続くので、炎症を起こして動きが悪くなったり、痛みを感じたりしないように注意しています。ボールで大腿骨頭と寛骨臼の隙間を作るように動かしたり、大転子と中臀筋周辺にボールを当てて動かし筋肉の緊張をほぐします。バレエは観客に重力を感じさせないで空中浮遊するように優雅に踊ることを要求されるので、実際に踊ったときにかかる重力のストレスを解くように、ボールで腰椎と腰椎の間に隙間を作っていきます。

もう一つ、ノルウェーで開発された「レッド・コード・セラピー」も取り入れています。これは天井から吊るした赤いロープを利用して、体にかかる重力の負担を軽くした状態で、神経や筋肉の働きを改善させるメソッドで、骨や関節の柔軟性を向上させるほか、バランス力も向上するので、自分に必要なメソッドです。

Q けがや痛みで病院や治療院に行くことはありますか？

なるべく自分で体調管理をして、痛くなる前に改善するように心がけています。公演があれば一人で参加して、決められたスケジュール体調を管理して、自分の体について学び続けています。

Q バレエでは体の柔軟性が重要ですが、どのように維持していますか？

もともとそんなに体は柔軟ではありませんでしたが、練習していくうちにどんどん柔らかくなっていきました。柔軟性を高めるためには、伸ばすだけではだめだと思います。ゴムも伸ばし続けていると、伸びて元に戻らなくなってしまふように、体も柔軟性を高めるためには、伸ばしたら縮めるという練習を繰り返していくことで、より伸縮性の高い筋肉、骨、関節に育っていくのだと思います。

Q 昔と変わらぬ体型や体力を維持するポイントは？

若い時は1週間ぐらい練習を休んでも筋肉が柔らかくてすぐに元に戻りましたが、今自分は48歳で、バレエ界では「おじいちゃん」と呼ばれてもおかしくない年齢になり、毎日欠かさず練習をしないと、なかなか休んだ分を取り戻せないことも実感しています。ストレッチ、パーレックス、公演前にはリハーサル…毎日2,3時間以上は、鏡の前に立ち、自分の体を見つめ続けることで、嫌でも年を取ったことや老いを感じます。それに抗うのではなく、受け入れて、違うアプローチ法でできることはないかと試行錯誤するのも、意外にたのしいものです。

Q 医師や医療関係者に望むことがありますか？

ぜひバレエの公演をたくさんご覧いただきたいです。バレエを見ていただくことで、その芸術性を理解していただき、非常に特別なメソッドの中で体を作り上げていく必要性を理解していただけたらと思います。筋肉や骨や関節のプロフェッショナルである医師や医療スタッフの皆さんのバレエに対する関心が、けがや痛みで苦しむバレエダンサーの治療やリハビリテーションの可能性を広げると思っています。またぜひ治療の際には、ネガティブな気持ちを少しでも前向きにするような言葉や励まし、具体的な提案をしてください。

首藤さん出演の公演情報

「ベートーヴェン・ソナタ」

ベートーヴェンの音楽と生き方に喚起されて完成した新国立劇場バレエ団オリジナル作品。

2019年11月30日(土)・12月1日(日)14時~

新国立劇場中劇場

電話予約・問い合わせ TEL03-5352-9999

第5回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内

日本股関節学会
ニュースレター

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

日 時: 令和元年 10月24日 (木) 10:25 ~ 15:05

会 場: シーガイアコンベンションセンター
(〒880-8545 宮崎県宮崎市山崎町浜山)

参加費: 10,000円

参加数: 200名

単 位: 日本整形外科学会教育研修単位が認められております。
各セッション1単位、受講単位は1日4単位まで取得可能です。
受講料1単位1,000円



申込方法: 第46回日本股関節学会学術集会「教育研修セミナー」ページより参加登録してください。
<http://site2.convention.co.jp/hip46/seminar/>

10:25 ~ 10:30	開会挨拶 理事長挨拶	高木 理彰 (セミナー担当理事) 久保 俊一 (日本股関節学会 理事長)
10:30 ~ 11:30	I 基礎 モデレーター 上島 圭一郎 (京都地域医療学際研究所がくさい病院) 1) 股関節周囲筋&関節包靭帯の解剖と機能 2) セメントの特性と特性を生かしたセメントテクニック	高尾 正樹 (大阪大学) 兼氏 歩 (金沢医科大学)
11:30 ~ 11:40	休憩	
11:40 ~ 12:40	II 股関節診断と保存療法 モデレーター 馬庭 壮吉 (島根大学) 1) 股関節痛の診断と治療 2) FAIに対する保存療法の実例	加谷 光規 (羊ヶ丘病院) 山崎 琢磨 (呉医療センター)
12:40 ~ 12:50	休憩	
12:50 ~ 13:50	III 小児股関節: 小児期の遺残性亜脱臼への対処 モデレーター 佐々木 幹 (山形済生病院) 1) 就学前の治療: Salter 骨切り術など 2) 就学後の治療: Triple 骨切り術など	品田 良之 (松戸市立総合医療センター) 二見 徹 (滋賀県立小児保健医療センター)
13:50 ~ 14:00	休憩	
14:00 ~ 15:00	IV 股関節手術合併症 モデレーター 内山 勝文 (北里大学) 1) 股関節周術期の感染対策 2) THA 術後脱臼はなぜ起きる	小林 直実 (横浜市立大学) 西井 孝 (大阪急性期・総合医療センター)
15:00 ~ 15:05	閉会挨拶	久保 俊一 (日本股関節学会 理事長)

第29回大正富山 Award 最優秀賞

第45回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。

最優秀賞 Awards



森田 大悟
Morita Daigo

浜松医療センター整形外科
副医長

Q

受賞した研究活動について教えてください。

寛骨臼形成不全股における変形性股関節症の進行に、レントゲン所見として形成不全の程度の他に何か別の因子が関与していないかを検討し報告致しました。

Q

受賞後の感想をお聞かせください。

股関節診療に従事するようになってからずっと疑問に思っていたテーマでした。結果としてこのような評価を頂けた事を光栄に思います。

Q

周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください

日頃よりご指導頂いておりました長谷川幸治先生、関泰輔先生、岩瀬敏樹先生には非常に喜んで頂きました。また多くの上司、同門の先生方にも沢山のお祝いの言葉を頂きました。

Q

受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

特別変わりはありませんが、少し自信がついた気がします。

Q

今後の展望についてお聞かせください。

本研究と同じように、日常診療の中での疑問を追及するような研究を常日頃より行っていけたらと思います。

最優秀賞
Awards



田中 里紀

Tanaka Riki

ひらまつ病院 整形外科医師

受賞時：佐賀大学整形外科 人工関節学講座助教

Q

受賞した研究活動について教えてください。

片側高位脱臼股症例に対して行った転子下骨切り併用THA後の3次元歩行解析を5年にわたって調査し、高位脱臼の分類別の特徴を報告いたしました。術後の脚長差も大きく歩行の改善に時間を要する症例ですが、症例数が少ないからこそ、佐賀大学で行ってきた手術の経過をまとめることで、患者様の術後経過の予測など、臨床の一助となればと思い研究してきました。

Q

受賞後の感想をお聞かせください。

佐賀大学に入局してから、股関節学会にはこれまで継続して参加させていただいており、本賞の受賞は1つの目標ではありましたが、実際に受賞できるとは思っていませんでしたので、大変うれしく思うと同時に、本当に信じられなかったです。これも佐賀大学で研究活動から学会発表や論文の書き方まで、これまで熱心にご指導いただいた馬渡教授をはじめとする医局の先生方のおかげであり、心よりお礼を申し上げます。

Q

周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください

日頃よりご指導いただいています佐賀大学の馬渡教授、園畑准教授をはじめとする上司、同僚、同門の先生方から多くのお祝いの言葉をいただきました。

Q

受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

日頃よりご指導いただいています佐賀大学の馬渡教授、園畑准教授をはじめとする上司、同僚、同門の先生方から多くのお祝いの言葉をいただきました。

Q

今後の展望についてお聞かせください。

現在は佐賀大学を離れて勤務中ですが、現在動作解析の研究に携わっている後輩たちに、また本賞を頂けるような研究を続けてもらいたいと思っています。また、私自身も現在の職場で仕事をしながらできるような新たなテーマを見つけることができればと思っています。

日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告

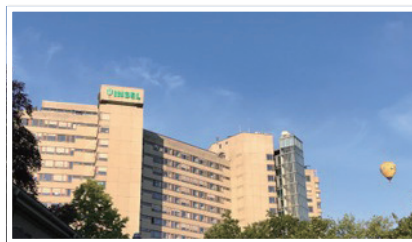


伊藤 重治 (いとう じゅうじ)
山形大学医学部整形外科学講座 助教

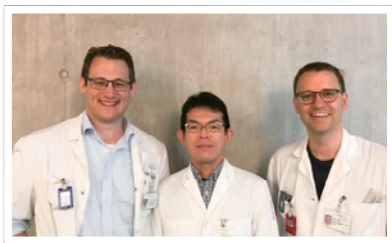
山形県出身。
2001年山形大学医学部卒業。
2017年より現職。
専門は股関節、骨盤・下肢外傷。



研修先：University of Bern 研修期間：2018年5月7日～6月29日



する熱意と姿勢に圧倒されました。また多くの手術に参加させていただき、PAOだけでなく、FAIに対する手術手技として知られるsurgical dislocationや、寛骨臼骨折に対するpararectus (傍腹直筋) アプローチなども間近で見学することができました。ベルンのスタッフや多くの海外フェローとdiscussionができたことや、短期ではありますが海外生活を通して様々な経験を積むことができたことは、一生の財産です。このような機会を与えていただきましたことに深謝申し上げます。



スイスの首都ベルンにあるUniversity of Bern, Inselspitalで研修をさせていただきました。

ベルン大学はAO財団創設者のお一人であるMüller先生や、Periacetabular osteotomy (PAO) の考案やFAIの概念を確立されたGanz先生がこれまで教授を務められており、特に股関節の分野で世界的に権威のある施設で、現在はSiebenrock教授のもと、股関節温存手術を中心に外傷まで幅広く診療されております。関節温存手術においては、形態異常を妥協なく矯正しようと





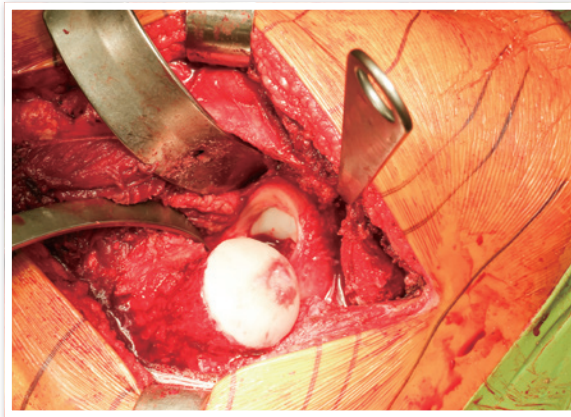
後藤 毅 (ごとう つよし)

京都府立医科大学 運動器機能再生外科学教室 学内講師

大阪府出身
平成14年京都府立医科大学を卒業し、同大学整形外科に入局。
明石市立市民病院、神戸中央病院、朝日大学病院を経て現職。専門は股関節。



研修先: Washington University in St. Louis 研修期間: 2018年5月~7月



寛骨臼や大腿骨の解剖学的形態を正常なものに再建する、ということ徹底していました。外来、手術症例ともに多く、大変充実した時間を過ごすことができました。セントルイスは歴史のある街で観光や野球観

私は2018年5月からの約3か月間、アメリカ中西部のセントルイスにあるWashington University in St. Louisで研修させていただきました。

私の研修先のWashington University in St. Louisのメディカルスクール(医科大学院)は中西部のハーバードと呼ばれ、私は骨切り術や関節鏡などの関節温存手術でご高名なJohn Clohisy先生にお世話になりました。Clohisy先生はGanzのperiacetabular osteotomy (PAO)やproximal femoral osteotomy (PFO)、関節鏡手術など多くの関節温存手術を手掛けておられました。外来では1日に約50~60名の患者が受診していましたが、1名ずつ局所所見を取り、的確に病態を把握していたことが印象的でした。手術では、

戦も楽しむことができました。

このような機会を与您えいただきました久保俊一理事長、安永裕司理事に御礼申し上げます。



日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告



渡會 恵介 (わたらい けいすけ)

埼玉医科大学病院 整形外科・脊椎外科 講師

埼玉県出身

2003年埼玉医科大学を卒業し、同大学整形外科に入局。西東京中央総合病院、小川赤十字病院、朝霞中央総合病院での研修を経て、2017年より現職。専門は、股関節外科。

United States of America



研修先：Boston Children's Hospital (BCH) 研修期間：2019年6月5日～8月27日



写真1



写真2

私は、Periacetabular osteotomy (PAO) が見たくて平成29年度日本股関節学会海外研修制度に応募し、Boston Children's Hospital (BCH) で3カ月間の研修をさせていただきました。BCHは、Harvard Medical Schoolのteaching hospitalであり、全米No1の小児病院で、年間6000件を超える整形外科手術が行われています。私が所属したChild and Young Adult Hip Preservation Programは、Young-Jo Kim教授(写真1)やMichael Millis教授(写真2)を中心に多くのHip osteotomyを行っています。PAOが毎日のように行われており本当に有意義な研修でした。PAOは術後2-3日で退院しますが、術後3カ月でジャンプをしている患者さんにはたいへん驚かされました。手術だけでなく、その後の経過を外来で直に診させていただいたことが貴重な経験となりました。

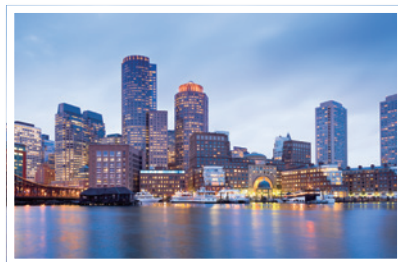
圧倒的な経験と知識を有するPhysicianの先生方、世界中から集まるFellowやResidentの面々(写

真3)、非常に優秀で親切なPAやRN、多様な言語のInterpreter、これらすべての方々との出会いが私の世界を広げてくれました。そしてかけがえのない体験をさせていただきました。

末筆ながらこのような機会をさせていただきました久保俊一理事長、渡米に際しいろいろご指導いただいた安永裕司理事、そしてすべての学会員の皆様に深く御礼申し上げます。そして多くの45歳以下の学会員の皆様が本制度で渡航されることを願ってやみません。



写真3



日本股関節学会令和2年度 海外研修制度と募集要項

日本股関節学会
ニュースレター

(募集要項)

1) 募集人員	2名
2) 研修条件	<ol style="list-style-type: none">令和2年4月～令和3年3月までの間で滞在期間は3か月未満を原則とする。海外での滞在施設は、希望する研修分野に応じて学会が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。費用について<ol style="list-style-type: none">渡航費用の一部を本学会が援助する。海外滞在中の滞在費、食費及び移動の費用は原則として応募者の負担とする。帰国後、英語と日本語での報告書の提出ならびに学術集会での帰朝報告を行なう。
3) 応募条件	<ol style="list-style-type: none">応募者は日本股関節学会会員であること。応募者は日本整形外科学会専門医であること。原則として45歳を応募時年齢の上限とする。勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。国際学会での発表の経験があり、滞在施設において発表できる研究成果を有するもの。
4) 応募に必要な書類	<ol style="list-style-type: none">日本股関節学会海外研修申請書 (Word版・PDF版)履歴書 (大学卒業以降とする)応募の動機や抱負について小論文日本股関節学会評議員の推薦状と勤務している大学、病院の施設責任者、勤務先責任者の推薦状 (推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること)。業績目録海外研修承諾書<ol style="list-style-type: none">大学勤務 教授の承諾書病院または施設勤務 勤務している病院または施設の責任者の承諾書 <p>以上、1 (申請書) 以外の書式は自由であるが、すべてA4サイズに統一し、上記の順にならべて左上を綴じること。また、コピー14部を同封すること。</p>
5) 選考方	<ol style="list-style-type: none">審査は書類選考とする。書類審査の結果は個別に連絡する。必要に応じて面接を行う予定である。合格者は後日改めて英文の履歴書等、海外施設での研修に必要な書類が求められる。
6) 申請締め切り	令和元年10月31日必着
7) 申し込み先	日本股関節学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F (株) 毎日学術フォーラム内 Tel.03-6267-4550 Fax.03-6267-4555 E-mail.jhs@mynavi.jp



第63回韓国股関節学会学術集会参加報告記

The 63rd Annual Meeting of The Korean Hip Society
- President Exchange Program -

日本股関節学会
ニュースレター



川手 健次

奈良県総合リハビリテーションセンター

左から2人目がYoon-Je Cho教授、3人めJun-Dong Chang教授、
中央が中島教授、その右隣が筆者(写真1)

日本股関節学会と韓国股関節学会それぞれの学術集会会長を互いに招待するプログラムの復活を期して、今回日本側から先陣を切って第63回韓国股関節学会学術集会に招待していただき参加してまいりました。

学会は5月17日・18日の2日間にわたり釜山で行われました。釜山は日本から近く、美しい海岸沿いに建つ寺や最近ではカラフルなCulture Villageが有名な、焼肉はもちろん海鮮料理がおいしい韓国第2の町です。

私以外には九州大学整形外科教授の中島康晴先生が招待されておら

れ、二人はPlenary lectureとして17日金曜日に20分の講演+10分の質問時間枠でそれぞれ招待講演をさせていただきます(写真1)。宮崎での第46回日本股関節学会(帖佐会長)の宣伝もしっかりいたしました。学会場のParadise Hotel(5つ星)はビーチ沿いに立地しスパやカジノも併設し多くの人が海岸沿いを散歩する美しいロケーションでした(写真2)。学会場は2会場で1990年頃の日本股関節学会を彷彿させる規模でしたが、実に活発にディスカッションがおこなわれ活気に満ちておりました(写真3)。演題は120題ほどで多くはTHAに関するものでした。

学会前日本曜日夜のWelcome Party、金曜日夜のGala Dinnerでは会長のYoon-Je Cho教授に歓待していた



写真3



写真4

写真2
だき、韓国側の重鎮の先生方、招待された中国、台湾、イタリアの先生方と親交を温めました。会員の息子さんがボーカルのバンドがゲストでK-POPを演奏しとても楽しい宴会でした(写真4)。Yoon-Je Cho教授はとても紳士的な方で、重鎮の先生方とともに今後日本と韓国の間でPresident Exchange Programを復活することを誓いあい、今年帖佐教授が宮崎で開催される第46回日本股関節学会学術集会にYoon-Je Cho教授を招待することをお伝えしてまいりました。その後はビーチ沿いの海鮮料理専門店での2次会となりました。宴会の開始はビールジョッキを横にずらりと並べジョッキとジョッキの間の上に焼酎を入れただぐい飲みをズラッと並べて置いて、木の棒で一番端のぐい飲みを棒で叩いて連鎖させてコンコンコンとビールのジョッキの中にぐい飲みを一つ一つずつつまき落として沈め(Bomb爆弾と呼ぶ)、それらをみんなで一気に飲むという余興でした。すでにご存じと思いますが今後韓国に招待される会長は相当覚悟して行っていただかなければなりません。

以上、今後末永く日韓両股関節学会、アジアの股関節学会が友好な関係を保つことを祈念して報告記を終わらせていただきます。

日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

役職	氏名	所属・職名
理事長	久保 俊一	京都地域医療学際研究所 所長
副理事長	杉山 肇	神奈川県リハビリテーション病院 院長
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科学講座 教授
	稲葉 裕	横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学（整形外科） 教授
	川手 健次	奈良県総合リハビリテーションセンター 院長
	坂井 孝司	山口大学大学院医学系研究科整形外科 教授
	神野 哲也	獨協医科大学埼玉医療センター第二整形外科 教授
	菅野 伸彦	大阪大学大学院運動器医工学治療学寄附講座 教授
	須藤 啓広	三重大学医学部整形外科学教室 教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科学講座 教授
	高平 尚伸	北里大学大学院医療系研究科整形外科学 教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科 教授
	中島 康晴	九州大学医学部整形外科学教室 教授
	馬渡 正明	佐賀大学医学部整形外科学教室 教授
	三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科学 教授
	安永 裕司	広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長
	山本 謙吾	東京医科大学整形外科 教授
山本 卓明	福岡大学医学部整形外科学教室 教授	
監事	遠藤 直人	新潟大学医学部整形外科 教授
	山田 治基	日進おりど病院整形外科、藤田医科大学 名誉教授
学術理事	大川 孝浩	久留米大学医療センター 院長
	中村 琢哉	富山県立中央病院整形外科 部長
	上島 圭一郎	京都地域医療学際研究所がくさい病院 院長
	兼氏 歩	金沢医科大学整形外科学講座 教授

新理事よりご挨拶 新たに就任した学術理事から会員の皆様へのメッセージです。

稲葉 裕 (いなば ゆたか)	正規所属名称・肩書	横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学(整形外科) 教授
	専門分野	コンピュータ支援手術、人工関節周囲感染、骨切り術
	抱負	この度、理事に就任させていただきました。今後、日本股関節学会の発展に少しでも尽力できるように頑張りますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。
坂井 孝司 (さかい たかし)	正規所属名称・肩書	山口大学大学院医学系研究科整形外科教授
	専門分野	股関節外科 骨循環 骨病理 リハビリテーション
	抱負	この度伝統ある本学会の理事の大役を拝命致しました。一般の方々への啓蒙、関連職種・他科との協力体制の構築、若手医師への教育を中心に尽力し、学会の益々の発展に貢献して参ります。何卒宜しくお願ひ申し上げます。
神野 哲也 (じんの てつや)	正規所属名称・肩書	獨協医科大学 埼玉医療センター 第二整形外科 主任教授
	専門分野	股関節外科学
	抱負	伝統ある学会の理事に選任頂き、大変光栄に存じます。1999年に入会して以来多くのことを学ばせて頂いた本学会の発展に、少しでも貢献できるよう、努力いたします。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。
高平 尚伸 (たかひら なおのぶ)	正規所属名称・肩書	学校法人北里研究所北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・教授、および北里大学大学院医療系研究科機能回復学、リハビリテーション学、整形外科学・教授
	専門分野	股関節外科、運動器リハビリテーション、静脈血栓塞栓症
	抱負	これまでガイドラインの策定委員、HP作成、外保連の実務委員等でお世話になっております。新理事としてこれまでの経験を踏まえ、股関節学全般の知識や技術をエビデンスに基づいて次世代に継承していきたく存じます。

日本股関節学会役員一覧②

日本股関節学会役員をご紹介します。

日本股関節学会
ニュースレター

名誉会員

東 博彦
飯田 寛和
石井 良章
糸満 盛憲
井上 明生
井村 慎一
岩田 久
小宮 節郎
進藤 裕幸
祖父江 牟婁人
高岡 邦夫
田中 清介
鳥巢 岳彦
内藤 正俊
浜田 良機
稗田 寛
船山 完一
松永 隆信
松野 丈夫
松本 忠美
宮岡 英世

評議員

青田 恵郎
赤木 将男
秋山 治彦
阿久津 みわ
阿部 功
安保 雅博
安藤 渉
飯田 哲
伊賀 敏朗
池内 昌彦
石井 政次
石堂 康弘
石橋 恭之
市堰 徹
伊藤 浩
伊藤 芳毅
稲葉 裕
今井 晋二
岩崎 倫政
岩瀬 敏樹
岩田 憲
上島 圭一郎
内田 宗志
内山 勝文
江川 洋史
遠藤 直人
橈 賢一
大川 孝浩
大谷 卓也
大塚 哲也
大塚 博巳
大橋 弘嗣
大原 英嗣
大山 正瑞
大湾 一郎
岡野 邦彦
岡野 徹
尾崎 敏文
尾崎 誠
加来 信広
柘原 俊久

片山 直行
金治 有彦
兼氏 歩
金子 和夫
加畑 多文
加谷 光規
苅田 達郎
川手 健次
川那辺 圭一
河村 春生
北川 由佳
木下 浩一
久保 俊一
古賀 大介
小久保 安朗
小助川 維摩
後藤 昌子
小林 千益
小林 直実
齋藤 修
齋藤 充
西良 浩一
三枝 康宏
坂井 孝司
坂本 武郎
佐々木 幹
佐藤 貴久
澤口 毅
宍戸 孝明
島 直子
神宮司 誠也
神野 哲也
菅野 伸彦
杉山 肇
須藤 啓広
瀬川 裕子
高尾 正樹
高木 理彰
高窪 祐弥
高取 吉雄
高平 尚伸

武石 浩之
立岩 俊之
田中 歩
田中 栄
田中 千晶
谷口 隆哉
種市 洋
帖佐 悦男
土屋 弘行
津村 弘
出家 正隆
土井田 稔
徳永 邦彦
中島 康晴
仲宗根 哲
中村 茂
中村 琢哉
中村 健
中村 利孝
中村 宣雄
中村 正則
中村 吉秀
中村 嘉宏
名越 智
西井 孝
西田 圭一郎
西山 隆之
野沢 雅彦
長谷川 正裕
蜂谷 裕道
馬場 智規
原 俊彦
原田 義忠
兵頭 晃
平川 和男
廣瀬 士朗
福田 寛二
藤井 玄二
藤井 英紀
藤井 政徳
藤岡 幹浩

藤田 裕
星野 裕信
佛淵 孝夫
堀内 忠一
前澤 克彦
前田 ゆき
間島 直彦
松下 功
松田 秀一
松原 正明
松峯 昭彦
馬庭 壯吉
馬渡 正明
三島 初
水田 博志
三谷 茂
三ツ木 直人
湊 泉
宮川 俊平
宮西 圭太
宗本 充
本村 悟朗
桃原 茂樹
森 諭史
森島 達観
森田 充浩
森田 裕司
安永 裕司
柳本 繁
山崎 琢磨
山田 晋
山田 治基
山本 謙吾
山本 卓明
山本 豪明
山本 哲司
山本 泰宏
吉田 宗人
脇阪 敦彦
和田 郁雄

学術評議員

青木 清
石田 雅史
今金 崇
大鶴 任彦
大橋 寛憲
岡上 裕介
楫野 良知
鎌田 浩史
後藤 公志
後藤 毅
齊藤 正純
坂本 哲哉
山藤 崇
庄司 剛士
瀬戸口 啓夫
園畑 素樹
高田 亮平
田中 健之
崔 賢民
千葉 大介
中村 順一
西脇 徹
橋本 慎吾
林 申也
羽山 哲生
福島 健介
藤原 憲太
箕田 行秀
三村 朋大
渡邊 宣之
渡邊 弘之



■ 会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■ 会費

正会員	医師 10,000 円
準会員	医師以外 5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者） 入会当該年度 のみの登録 5,000 円

入会手続き



ご入会を希望される方は、以下より申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。なお、ダウンロードできない場合には、郵送いたしますので、申込先までご連絡ください。手続きに際しては必ず会則をご一読ください。

1. 入会申込書の記入について

- 入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
- 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
- 連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
- 準会員での入会の場合は、可能な限り正会員1名の推薦をお願いします。
- 推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。
- 臨時会員の入会は、当該年度のみ登録となります。
例：第46回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第46巻 Suppl. 誌に投稿の場合、当該年度（2019年度：2019年9月1日～2020年8月31日）のみ登録となります。
- 本会の会計年度は、9月～8月です。
- 記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

2. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1ヵ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

3. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 → HPよりpdfダウンロード
賛助会員 → HPよりpdfダウンロード

4. 自動振込申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印のうえ、下記申込先まで郵送してください。

*入会初年度は、学会事務局よりお送りする年会費請求書（払込用紙）にて送金手続きをお願いします。自動振込の取扱いには次年度からの適用となります。

*届出印相違により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。

自動振込用紙 → HPよりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9階
(株) 毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-Mail：jhs@mynavi.jp
URL：<http://hip-society.jp/>

Japanese Hip Society 日本股関節学会ニュースレター

Hip 2019/9 第5号

編集後記

昨年に続き日本各地が記録的な猛暑と豪雨に悩まされた夏が過ぎ、夜半には虫の声がしきりに聴かれる時期になってきました。日本股関節学会ニュースレターの第5号をお届けいたします。

昨年10月に名古屋国際会議場で開催されました、本学会が一般社団法人化されて初めての学術集会である第45回日本股関節学会学術集会の報告記を山田治基会長にお寄せいただきました。また本年10月に宮崎シーガイアコンベンションセンターで開催されます第46回日本股関節学会学術集会の準備報告を帖佐悦男会長にお書きいただきました。

また学術集会の前日に予定しております第5回教育研修セミナーの本年度のプログラムが決まりましたので掲載させていただきました。高木理彰理事のご尽力により、内容は股関節外科医を目指すうえで必須となる重要項目を基礎から臨床応用まで偏ることなく研修していただけるよう工夫がなされております。多くの股関節学を志す若手会員のご参加をお待ちします。

第29回大正富山 Award 最優秀賞ならびに優秀賞を受賞された先生方のインタビュー記事もご覧ください。日常診療の中で疑問に感じたことを題材にしてそれをしっかりと解明していく喜びや、多くの上司や同僚から祝福された喜びを語っておられます。本学会誌であるHIP JOINTへの投稿がますます盛んになり、その中から本 Award 受賞を競う優れた論文が多数掲載されるようになっていただければと思います

また海外研修制度に応募されて留学を終えられた3名の先生方からの帰朝報告も掲載させていただきました。短期間でありながら極めて多くの経験を積んでこれ大変充実した研修であったことが伺えます。さらに次年度の海外研修の募集要項も掲載させていただきました。安永裕司理事のご尽力により、より良い留学が継続できることが期待されます。

さらに第63回韓国股関節学会学術集会参加記を川手健次理事に寄せていただきました。最近日韓関係に政治情勢上緊張感が漂っておりますが、そのような状況にあっても股関節外科学における日韓の交流が一層活発になっていただくことを祈念いたします。

また今回は特別インタビューとしてバレエダンサーの首藤康之さんにお話を伺いました。プロの舞台芸術家の生の声は我々股関節外科医に大きく響く内容になっていると思います。

今後も股関節医療に携わる方々に有用な情報をお伝えできるようなニュースレター作成に努めたいと思います。紙面づくりにあたり是非忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。

(担当理事 山本 謙吾)

日本股関節学会ニュースレター第5号 2019年9月号

発行元・お問い合わせ先

一般社団法人日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル9階
(株) 毎日学術フォーラム内

TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555

E-Mail : jhs@mynavi.jp

URL:<http://hip-society.jp>